

会津駒ヶ岳山スキー報告

山行日：平成 29 年 5 月 5 日（金）

天候：快晴

登山方法：山スキー

メンバー：CL 菊池 SL 薄井（記録） 鶴田 滝本

行動時間：登山口（930m）6:25-ヘリポート跡 8:45（シール登高開始） - 山頂（2133m）
12:40-登山口 16:10



全員が早起きしたため、宿泊場所から会津駒ヶ岳登山口に到着し、準備して出発したのは予定より早かった。新潟の I さんが都合により帰宅し、今日のメンバーは 4 人となった。とにかく長丁場なので、出発は早ければ早いほどいい。

登山口から橋を渡り、ところどころ雪が切れる林道をつぼ足で歩いた。やがて登山口から階段を上る登山道に入る。雪は全くなくスキーヤーの姿も見かけない。しかしつぼ足の登山者も必ずと言っていいほど簡易ソリ（満月ソリとい



うらしいです) をザックにくっつけている。

前半はとにかくゆっくりと歩いた。ようやく雪が出てきたところでアイゼンをつけ、ヘリポート跡まで上ってから(1200m付近) シール登高に切り替える。ここで単独のツボ足登山者が山スキーに興味津々といった様子で近づいてきた。いろんな意味で山スキーの敷居は高いが、きっかけを見つけてやってもらいたいと思う。

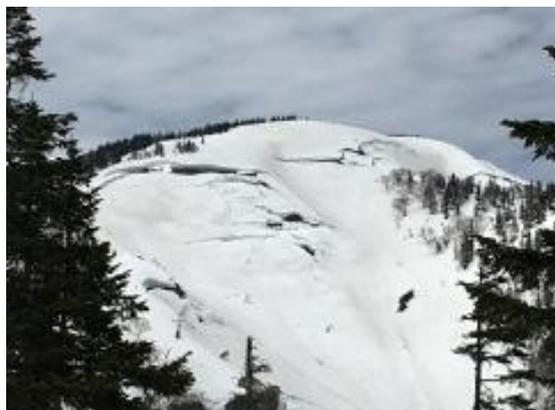


今度はショートスキーを履いた人が滑り降りてきて、「直登して全然滑りませんね。素晴らしいですね」と話しかけられた。そのときは意味がわからず曖昧に笑ってしまったが、あ、褒めてもらったんだとしばらくして気づいた。シール登高もとにかく経験なようで、去年登れなかった斜面が今年は登れることもある。



三ツ岩岳から二泊三日で縦走してきたという品川山岳会のパーティとすれ違った直後の登りが、しかしスキーではやや厳しかった。途中からスキーを担いで尾根まで上る。

だらだらとした樹林帯の尾根上からようやく右手にクラックの入ったピーク、左手に昨日の燧ヶ岳の姿が認められるようになった。



ここまでだいぶ時間がかかっているので、樹林帯を抜けたところで滝本さんと二人で先に山頂を目指してもよいとリーダーから許可が出た。右手に見える山頂まで稜線をトラバースして行くように言われ、にわかにリーダーとなって先行。時間がかかるかに見えたが難なく頂上直下まで達した。直登もできそうな緩やかな登りだったが、一応左手から回り込むとあっさり山頂に到着。少し遅れて菊池リーダーも到着。鶴田さんは途中で待機してくれているらしい。



山頂から全方位の大展望をしばし眺めた。トラバースルートからは見えなかった小屋は、上から見るとほとんど出ていた。下りで会った登山者に聞くと営業しているとのこと、数組の宿泊予定パーティに出会った。

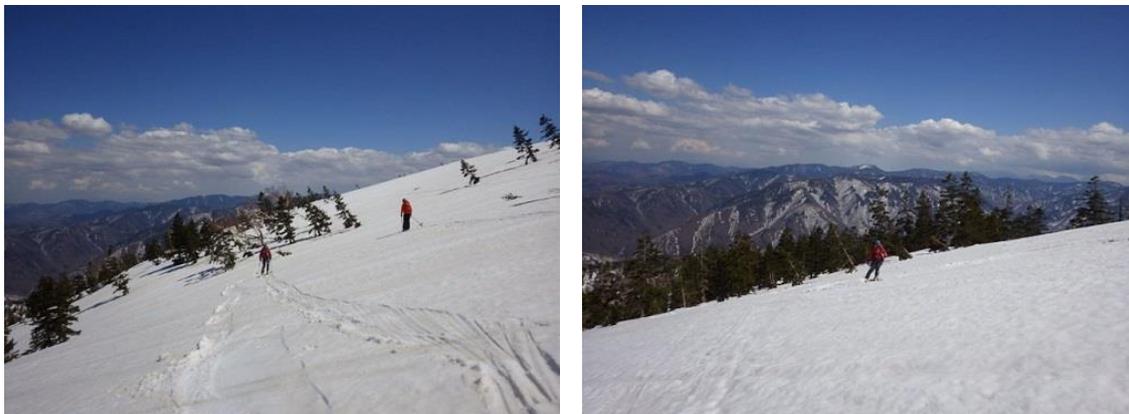


名残惜しいが下りも長いのであまりゆっくりはできない。滑走の準備をして山頂から一人ずつドロップ。どこまでも滑って吸い込まれてしまいそうな斜面だが、そのまま落ちていくと後が大変なので、小屋下に入っている沢をストレスなく越えられる程度にとどめ、トラバースして元の尾根に戻り鶴田さんと合流。



全員でツボ足隊の踏み後でこぼこの稜線をなるべく避けながら滑っていく。後で某テ

レマーカーのブログを読むと「会津駒は登山者に大人気で、尾根は踏み跡だらけで滑りにくい」とあった。スキーヤーが少ないのはそういう理由かもしれない。



木がだんだん混んできてブッシュも出てきた細尾根は滑りにくい。途中でスキーを脱いだ鶴田さんとヘリポート跡で合流。細尾根を横滑りで下ってスキーを脱ぎ、再びスキーを担いで登山道を下りた。午後4時10分に無事下山。昨日と同じ「駒の湯」でさっぱりして、2日間楽しませてもらった秘郷・奥会津を後にした。